



新年のご挨拶

病院長
新家 真



新年あけましておめでとう御座います。

平成27年（2015年）未（ひつじ）年の始まりです。

我々日本人は、十二支を動物と結びつけて考えていますが、未は羊とは一見何の関係もないような漢字に見えます。十二支は元々は順序を表す単なる記号であり、殷（商）の甲骨文では十干（甲、乙、丙、丁…）と組み合わせられ、日付を表すのに使用されていたそうです。なぜ動物と組み合わせられたかと言うと、人々がその単なる順序記号を覚えやすくするために動物を組み合わせたとする説が後漢の王充により提唱されているそうですので、2000年以上前の人も「なんで未が羊？」と疑問に思っていた事になります。もっとロマンのある説としては、古代バビロニアの天文学（当時においては間違いなく最も優れていた）の天宮十二宮がシルクロードを伝播してきて十二支と結びついたという学説もあります。では何故“12”支なのでしょう？十干の十は人の手の指が10本で、これを計算に使用するのは理の当然として分かりますが、人間の指は12本はありません。12は約数が2、3、4、6且つ4と6の約数が各々2と3である事を考えると、12は約数倍数の宝庫で（10の約数は2と5のみ）実はとても便利な数である事を人類は昔から本能的に知っていたと考えられます。更に最大の惑星の公転周期が12年である事も12の意味を高めたとされています。こう考えると十二支は、古代黄河文明と古代バビロニア文明、そしてその天文学と古代数学の結晶のような物で、そう簡単には「古くさい・時代遅れ」とか「西欧では使われていない」とか「なんで今年が羊の歳でなきゃいかんのか？」とって捨て去るべき物ではないように思われます。実際十二支が未だ使用されている国は本家の中国以外にも韓国、ベトナム等、日本だけではありません。

さて、「未＝羊？」と言う事から話がだいぶ脱線してしまいましたが、現在の日本そして関東中央病院に眼を転じてみましょう。この原稿を書いている12月14日は安倍内閣による衆院解散による総選挙の投票日で、拙文が印刷される頃には首相が変わっているのか、医療政策も少しは違って来るのか、景気が良くなるのか悪くなるのか全く分かりませんが、関東中央病院は平成27年（2015年）にはかなり変わる事ができると期待しています。平成26年度には電子カルテの更新と病院機能評価の更新（現時点では後者はあくまで予定です）という、とても大きな関門があり、その対応に終始した感がありますが、平成27年度には

- 1) 産婦人科の再開の目途が立ちます。東大産婦人科医局より榊原先生に加えて新たに2人の医師の派遣が決定しました。
- 2) 平成27年度より東大小児科医局より更に一人の医師が派遣されることにより、小児科の入院再開が可能となります。
- 3) 東京医科大学学長（耳鼻科主任教授）の御好意により、耳鼻科の常勤医師を一人確保できそうので、耳鼻科外来再開の目途が立ちます。

これで長らく四発エンジンの一つが止まったままの飛行を余儀なくされていた当院も、晴れて本来の姿に戻れそうな「未歳」です。

人口約90万人の世田谷区の地域支援病院として、地域に於ける期待にやっとそえる状態になれるそうです。地域支援病院として真に機能できるように全職員心を一つにして頑張っていく所存です。

今年が皆様にとりまして、日本にとりまして、そして世田谷区地域医療にとりまして、良き年となるよう心よりお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。